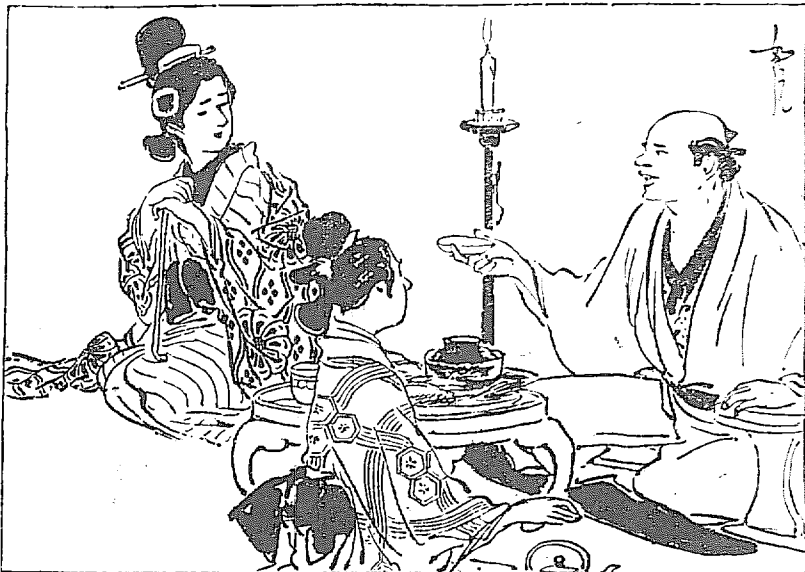


浪櫻
上川
義三郎
速記

其中に新之助（ブー）遊んで居る間に
 に方々の部屋々々へ遊びに行くやう
 になつた、大名の部屋と云へば博奕
 場で、毎日ボカ／＼やつて置ります
 新之助も遊び事は從へりゝゝゝでチ
 ヨイと手を出したのが癖付きで毎日
 のやうにやつてやつて居る間に顔が
 して來て男が好くやつてお披露にい
 るから新兄い／＼と立てられるやう
 になる、昔は旗本の二男三男などい
 いふ中には女郎と博奕場歩き／＼の
 思はチブル／＼と寵へ
 がたを癖付きと申します、是から
 いふものは太左衛門戀の奴となつ
 通ひ詰める、白菊も多田の若旦那
 の之が自分のために兄さんから割
 されて八百屋の二階へ食客として
 居る譯は氣の毒だと思ふから新造
 花野と相談して一方から手廻を
 する、此頃血道を上げて通ふ太左衛
 門男といつたら別で人三佐七とい
 のはよくあるが之は人一代九とい



ル外十大特典を提供して、中學科及び政
學科校外生を募集する由入學志望者は同用
宛見本附規則書を請求し詳細を知るべし

未至



僕^{わが}の毛^け染^{ぞめ}は毎^{まい}もナイス
 ナイス程^{ほど}快^{こころ}く染^{そめ}まる染^{ぞめ}毛^け劑^{ざい}は外^{ほか}にない

ツタ二十^{ふた}分^{ぶん}で美^{うつく}事^{ごと}に染^{そめ}る
 申^{まを}分^{ぶん}ないシラガ赤^{あか}毛^け染^{ぞめ}だ!!



開靜にして避暑に宜し 滯寒に宜し
安奉沿線五龍背驛を距る二丁
御洲五龍背温泉
風光絶佳にして一大樂園なり
諸病に特効あり理想的療養場なり
庭泊下宿、自炊、各様の設備あり
活字販賣 其他 各種 附屬品
大塚通二丁目 初田活版製造所
寫眞銅版 銅鋅山版
寫眞銅版 銅鋅山版
京都日報社 寫眞製版部

資本金五百萬圓
 東京城本町壹丁目
 株式會社
 百三十三銀行
 東京支店
 總行一樓五八番一四番
 振替所金京城一三番
 爲換取組先內地各方面並朝鮮樞要の地に有之候
 銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
 眼科專門
 京成本町六丁目(元軍司令部通り)
 金井眼科醫院
 電話一五五六番
 院長 金井 豐七

京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通)

入院隨意

酒井婦人病院

電話二六〇〇番

資本金 貳千百五十萬圓
積立金 九百廿五萬圓

京城市永樂町二丁目(獨資會社)

株式會社

第一銀行京城支店

頭取 男爵 澁澤榮一

銀行一般の業務に確實を旨とし、精々御便利に取扱申候
内地朝鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候



光臨門から西大門線で
一萬三千二百五十四人



景氣立つた本町通

影い人出

影い人出 賣店もはくく
影い人出 賣店もはくく
影い人出 賣店もはくく

秋の釋王寺

秋の釋王寺
秋の釋王寺
秋の釋王寺

秋の平野

秋の平野
秋の平野
秋の平野

秋の平野

秋の平野
秋の平野
秋の平野

秋の平野

秋の平野
秋の平野
秋の平野

夫人等 夫人等 夫人等
夫人等 夫人等 夫人等
夫人等 夫人等 夫人等

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

夫人等 夫人等 夫人等
夫人等 夫人等 夫人等
夫人等 夫人等 夫人等

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

夫人等 夫人等 夫人等
夫人等 夫人等 夫人等
夫人等 夫人等 夫人等

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

名士の來觀

名士の來觀
名士の來觀
名士の來觀

番柴浪人
前并年餘

説策（十七）

前田玄以は、平常にも似ず、頗る嚴重な態度を以て、まづ神戶信考に其上意なるものを傳へ、豫て期したる其息巻く等を背後に聞いて、悠々と岐阜城を退居。間も無く清洲に向つて、北島信盛と同じ上意と云ふのを傳へると、これに根が腫痛で、對手を握り出れば、直ぐと懷上ると云ふ性質であるから、さりとて直ぐに出任とは云はなかつたが、病氣の故に伺候遅延、御前よしなにと云ふ湯遣はして御旗をと。」

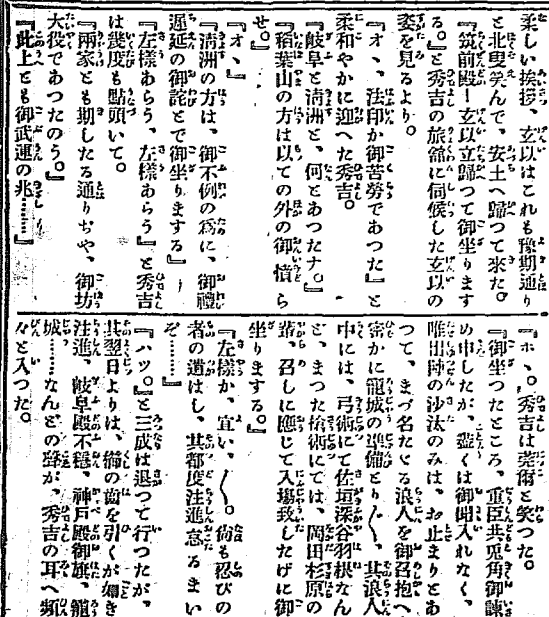
「花も咲かう。月も照らう。我等の前には好い景色が展く。御坊も共に、それ楽しんでやぞ。」

「ハツ」と玄以は尚も憂鬱復命して其儘退つたが、入れ違ひに石田佐吉が忍びやかに這入て來た。

「殿！ 只今、忍びの者、岐阜表より立歸つて御坐ります。」

「ム、して、何とぞやナ？」

「前田法師の口上にて、三七殿殊の外に御氣色、早速紫田瀬川に使者を遣はして御旗をと。」



一果三得の買物の仕方。その第一は、専門の店へ注文するなり、御自身で買ひに行かれるを、希望致しきすのである。専門の商店は必ず品物も宜しい、價値も安いのです。専門の店は内地より直接に荷を呼ぶものゝ幾軒にも品物は渡りて居ません、これに引替へて如上説いた通りの彼雜貨店の品物は如何かと觀察すると、等軒にも渡つて来た品が多い從つて價も高くなつて居る、其雜貨店の御用聞きも便利だの重寶だのと、便つて居る奥様の経済的の拙劣い事を申すまでもない事です、此御用聞きには雜貨店が多いので困るのです。

自然に雜貨店を賣買が、生活費の三割を餘事に超過して居る譯なのです、まづ高等官、家では三十圓の生活費、或は五十圓の生活費、或は百圓の生活費は別々に區別を附けるでもありませんが、月給の點から推して官の家でも同じです、それ等の生活費に三割を食費、喪失して立派な奥様の氣取つても、奥様のものは雜貨店持樣です、御用聞きを只で置いて御いて居る雜貨店といふものはない、皆給料を籠めて高く賣つて居るのです、御用聞きとして、あのやうな下級な職を取るだけの覺悟があつたら、さうつと將來有望な事業にたづなはる必要があります、序に御用聞きの眼を醒まして遣りたい。

有意な志を抱いた青年乃至少年が、御用聞きなどに身を落して將來の事を考へないのは、自尊心の絶望した様です、自身を顧みない云つたたやうな、自分に忠告を遣り方ではないのです、慨然立つて前途有望な地位を見附けない。

世間は廣いものです、龍は池に住む事を望まないではありませんか、奮然として私の言葉に、數多い雜貨店の彼みぢめな店員を、今日限り止めなさい、意氣地のない店員を見る度に、胸が悪くなるのであります、與縁は同情心を以て御用聞きの品を買ふと思ふと、大いなる違ひです、同情もよりけりです、こんな同情を得て御用聞きも店員も其日々の事は足りませう、然し將來何んの幸福の事が生ずるでせう、智識のある青年は、一日も早く御用聞きを止めなさい。

▲廣告▲

理想的
完全無比の
雨具

東京神田區東區南九
島村友三郎商店

●急告

梅毒専門薬唯一丸

梅毒は梅毒根拒絶よりよすす家
の病毒より来る病毒は菌を治
減するに共安全に體內より驅
除すべき靈藥により其目的を達
す現今梅毒藥其他の副作用
多の病毒を起す此兩効を併有する
は梅毒唯一丸なり百藥効
専門薬唯一丸なり方は速
に此良藥により不安を去られよ
三分の一の費用で週四回より五
回全一ヶ月分を拜禮光臨せり
●全國有名藥店にて販賣せり

梅毒養生法 送料四錢
發賣元 中西藥局
東京市牛久保區神樂坂上
櫻井東京市千代田區

シタタ屋

紳士ムーリク靴印シワ
部業營津栗 阪大

有らぬ病梅毒の長所を採つて
でも、効力に對する競争試験に應じて
ばい毒藥一週間分普通通函式拾錢

吾輩社は、天下に名の有る、りん病
で常に實際の効力を試験して居りま
無二の良藥であるとの評判を得て居

入院 胃腸病院
院主 佐々木本造

入院隨
外皮膚花柳科

泌尿生殖器科
安部醫院
京成永樂門二丁目(金光教會隣)
診察時間 午後九時迄
電話 四一九番
院長 安部修三

國產の精華

芳香佳味

宮内省御買上物品

紅茶

一斤箱八十五錢
半斤箱金四十五錢

製造元

日本臺灣茶株式會社

發賣元

宮內省御用達 會社 △明治屋

衛生無害

無双醇良清酒

品質無双

首藤合名社會吟造
精白米卸小賣 寶小卸米白精
ハービンキ 萬甲龜油醬 ハービロボツサ
種各一 種各一 種各一 種各一 種各一 種各一
種各一 種各一 種各一 種各一 種各一 種各一

朝鮮鮮發賣元

首藤京城支店

(金町一七番一)

最上醬油

京本町三丁目

田中支店釀造

電話六七四番

共進會に供越し方は必らず

津村にてみゆげをのり

事と忘れ給ふな

① 津村兄弟商會

改訂を加へて行くからであります。吾が社は他の如何なる藥病、梅毒薬と

ます。詳細は本月三日の京城日報夕刊第四面を御覽下さる。

製成園りん病藥普通通關特製圓照會は返信券を要す

門房藥

ドミナリ商會鮮本部

本館 大阪 合資會社 ドラツク商會

電話二五六七番 振替東京四六七番

京城南大門外停車場通り

[illegible]